

『命の道』 として機能。

役割。

子どもたちが難を逃れた、釜石山田道路。

高台にある釜石山田道路（三陸縦貫自動車道）が避難路となり、児童・生徒約570人はその日のうちに旧釜石第一中学校体育館に避難。



岩手県提供資料

大槌湾からの津波により、岩手県の鵜住居小学校、釜石東中学校も被災。だが、生徒ら約570人は、高台にある三陸縦貫道 釜石山田道路に逃れ、全員が助かった。しかも、その道路を使って避難所の旧釜石第一中学校の体育館へと移動もできた。さらに、この釜石山田道路は迂回路として人や物資の移動に利用され、地域の孤立を回避している。



国土交通省 東北地方整備局資料

大津波警報の中、避難する釜石中学校と鵜住居小学校の生徒・児童たち



群馬大学 片田敏孝 教授 提供

子どもたちの命を救った、避難階段。

岩手県の小本小学校は津波により冠水したが、児童ら88人は学校から高台の国道45号に続く避難階段を通り、間一髪避難できた。この階段は、震災2年前の2009年に設置されたばかり。まさに、命の道となった。

岩手県岩泉町国道45号
130段の避難階段（2009.3.25）



国土交通省 東北地方整備局資料

岩手県 小本小学校
避難訓練の様子（2010.9.3）



国土交通省 東北地方整備局資料